

令和6年度第3回下北地域公共交通総合連携協議会 議事概要

開催日時	令和7年2月4日（火） 13時00分～14時30分
開催場所	むつ市役所 本庁舎 大会議室A
出席者	(1) 委員：31名 北原会長、角本委員、熊谷委員、松木委員、亀谷委員、東出委員、角谷委員（代理：神）、有明委員、杉山（毅）委員、似内委員、佐藤委員、杉山（雄）委員、下川原委員、佐伯委員、河門前委員（代理：大久保）、布施委員、畑中委員、越後林委員、小寺委員、根岸委員（代理：船越）、坂井委員、佐々木委員、花田委員、角田委員（代理：村松）、一戸委員、千葉委員、岩瀬委員、菊池委員、橋本委員（代理：小山）、能渡委員、山本委員 (2) 事務局：3名 むつ市 政策推進部 交通政策課 黒澤次長（課長）、藤井主任主査、山崎主任 (3) 事業者：2名 株式会社ケー・シー・エス 北東北事務所 新宮所長 株式会社ケー・シー・エス 東北支社 増子主任
次第	1 開 会 2 あいさつ 3 協議事項 下北地域公共交通計画素案について 4 そ の 他 5 閉 会
協議事項	■下北地域公共交通計画素案について ・事務局及び事業者より、配付資料『下北地域公共交通計画素案』に基づき説明 【結果】 ・原案のとおり承認 ・各委員からの意見等については、以下のとおり。 ●北原会長 ・ただ今の説明について、意見・質問等はあるか。 ○千葉委員 ・県立の高校を代表して質問させていただく。12月末の計画骨子に対する意見要望を提出させていただいたが、回答者から出た要望内容および要望の具体的な反映箇所があれば教えていただきたい。また、109ページの「公共交通の将来ネットワークイメージ」に「むつ養護学校線」が記載されているが、今後も運行を継続するということによろしいか。 ●事務局 ・質問の1点目「計画骨子に対する意見要望への反映状況」は、代表的なものとして、圏域または市町村における公共交通の課題は「持続可能な地域であって住み続けられるための地域づくりではないか」という意見や「地域住民の利用

増加が見込めないので維持確保に努めてはどうか」などの意見を踏まえて素案を修正している。2点目の「公共交通の将来ネットワークイメージ」は今後、修正したものを提出させていただく。

○千葉委員

・つまり廃止になるということによろしいか。

●事務局

・この場は下北地域公共交通計画について協議する場であり、「むつ養護学校線」に関する協議等については、地域公共交通会議であるむつ市地域公共交通活性化協議会の中で協議させていただきたい。

●北原会長

・今後は意見要望への対応状況はご紹介できるように整理していただきたい。その他に意見・質問等はあるか。

○杉山(毅)委員

・66 ページに記載されている「路線バスの輸送要件を満たさない場合の路線」について、残念ながら「補助要件の対象外」となることがほぼ確定しており、記載のとおり「代替交通の検討」が必要となる。もし、今後の対応スケジュール等があればご教示いただきたい。2点目に、106 ページの施策「⑩交通結節点の整備」は今年も含めた6年間で整備するということがよろしいか。

●事務局

・質問の1点目「補助要件の対象外となった場合のスケジュール」は、泊線および野辺地線の状況によっては今年の10月から国・県の補助要件の対象外となるため、むつ市をはじめとする沿線市町村の補助金によって運行するのか、路線再編・代替交通等で対応するのか協議が必要となる。10月に向けて遅くとも4月には各市町村の担当者を含めて協議をしていきたい。2点目は計画期間内の適切なタイミングで整備を進めていきたい。

○角田委員（代理：青森県 地域交通・連携課 村松主査）

・県の担当として補足させていただくが、野辺地線については本年度、県の事業として関係市町村と利用実態等のデータを用いながら、今後の再編の方向性について検討している。先の回答にもあったとおり10月から補助対象外となる見込みが高まっているため、速やかに協議を進めていく。また「2ヶ年連続で補助要件15人を下回っているので補助対象外」という説明いただいたが、私の認識では「過去のコロナ影響による輸送量の減少」が考慮されるので令和5年度は補助対象外とはならないと認識している。なお、2ヶ年連続で補助要件を満たさないというよりも「計画輸送量が15人を見込めないということで補助対象要件が満たせない可能性がある」と認識しているため、後ほど認識の統一をさせていただければと思う。もう一点、お願いになるが、同じく66ページについて、広域路線バスの推移が令和5年までしか掲載されていないが令和6年度の運行が既に終了しているのでは、可能であれば追記いただければと思う。

●北原会長

・確認して、必要に応じて修正いただきたい。他に意見・質問等はあるか。

○佐々木委員

・全体指標設定にも用いられている「満足度と重要度」について「満足度が低く重要度が高い項目」への対応として、施策に位置づけられているものがあればご紹介いただきたい。

●事務局

・「満足度が低く重要度が高い項目」については、運行時間やバス同士およびバ

ス⇄鉄道間の乗継に関する事項であり、施策としては「⑭情報発信の強化」などで対応したいと考えている。

○角本委員

- ・おつ市地域公共交通活性化協議会の会長として、その場面で出た話を共有させていただくが「下北交通、JR と muve の接続性の重視・運行時間帯の工夫」などを実施している。市民の皆様からの声があれば、今後も可能な限り対応していくので、皆様にもご理解いただきたい。

●北原会長

- ・この連携協議会の場をはじめ、乗継のために移動手段を繋げていくことは非常に重要なことだと思う。「満足度が低く重要度が高い項目」については今後も的確に事業者間で連携して進めていただきたい。

○杉山(毅)委員

- ・101 ページ「⑥交通事業者の運転手確保に向けた支援の実施」について、「中心部における持続可能な公共交通の確保に向けて、事業者への支援を検討します」とあるが、具体的な内容があれば教えていただきたい。

●事務局

- ・支援内容として考えられるものとして「利用者が増加するような環境の創出」や「路線への補助」など様々なものが考えられる。この場では方針として示しており、今後も様々な対応を検討していきたいので引き続きご協力いただきたい。

○杉山(毅)委員

- ・心意気を出していただいたということで、今後もよろしくお願いしたい。

●北原会長

- ・他に意見・質問等はあるか。

○角谷委員（代理：東日本旅客鉄道株式会社 青森駅 神 副支店長）

- ・同じく 101 ページの「⑤デジタル技術を活用した新たなサービス（交通 DX）の検討及び実施」の中で「交通系 IC カード」はどのような取組になるのかご紹介いただきたい。

●事務局

- ・本件はこれから、地域住民の意見等を踏まえて具体的な内容や必要なものの導入を検討していきたいと考えている。

●北原会長

- ・他に意見・質問等はあるか。

○一同

- ・なし

●北原会長

- ・後ほど、皆様からご意見を頂く機会があるかと思うので、更に深く確認いただき、事務局へご意見いただければと思う。本日は素案を承認とするが、事務局は頂戴した意見を踏まえて引き続き作成を進めていただければと思う。